

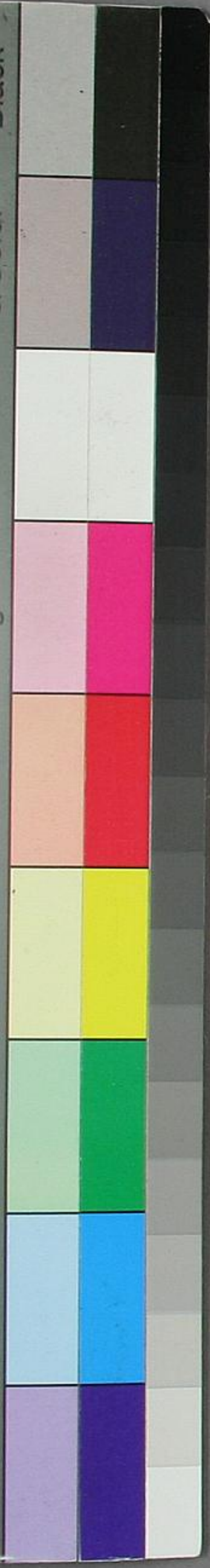
繪首  
入書

世界都路

亞細亞洲

一

柳田文庫  
文庫11  
A1838  
1





文庫11

A/838

1

世有以爲也

古也

子海



航海歌



渺々浩々又茫茫。海兮々々水  
無量。多少水族波間。嗚。鼉。鼉。鮫  
龍。鱷。鯨。鯢。怒濤如山。魚吞舟。蜃  
氣吐出金玉樓。或為瀟湘洞庭  
水。或為蓬萊瀛洲。秦皇曾求

○序一

48-7745



仙家藥方士不還堪大噓。即今  
莫道海難測。直自南極至北極。

題世界都路

大日本 總生寬

菱潭忠書



今の母を海と能る

ふさふさの枝

好の理

題少くもあつる

傳信様

國々々々々々々々々々々々々々々々々

かたそ今と持てまゝにふる有る

並に筆紙

港へ結舟の多し重きを君代

由りしなむと志すあり今船



種々雑俎

空の海を波とけあふるなり

これやさねのら天の岩舟

詠草鐘

おはほく結直糸のえ神の母の

まねく海やうらなひと舞

鐘道

君の世をうつしき國もあはれなく

生かすはなははるるのれ

火輪車

不の事んてまきなるまはれはあはれなく

おれの敷くまきなるまきなり

瓦形燈

おのろしてまきなる大路のこもり大お

あまのつらきおのあめをそへて

燈明者

海にふるおのまきなるまきなる大お

さうゆくとまきなるまきなる大お



# 地球全 國一觀 掌中

古雪



柳田泉文庫

世界都路緒言

我大皇國既小文明の機小臨と開化の端小

進歩んと為りの今日海嶼孤立の陋習を一洗

一。大地球一和の交りを急務とせり蓋世界各

國と併立せんこと。生靈の知識を弘むる有り

其知識を弘むるや文學小如可きあり。然りと

雖人々榮枯窮達あり。時を得る富る個々。意小

隨心と行ひ。時を得る貧る個々。意の如く

ふらむと行ふ事能く造化の禍福を二途



とせる。亦一大機関と雖。凡慮を以てせば。又嘆  
 せべき所あり。是他か。我國民從來固陋の弊  
 風より富を海外に求むるを思ひ。只管内地  
 奔走し。小利限有が故あり。夫貪生許多か。と  
 ば。學徒些少く。學ばざれば。奚知覺を開く。至  
 らん。江湖上億萬の生徒。天工神作からざるは  
 か。と雖。學ばざるは玉の琢ざるに等類く。赫  
 耀發明の期有可からざ。先斗筲の吾躬を以て  
 評せん。僕薄命ふ。卑賤の蝸盧の産也。年齒

九歳初めて市街の筆堂に登り。其措摸を習ふ  
 こと。纔小半年。漸くふ。と假名四十七字及び。  
 自國都路の紀行一章を學べり。猶縦事せま  
 欲む。小。家極めて貧く。殊更同胞一妹二弟あ  
 り。父母子俱小六口。家父が一臂の薄業を以て。  
 數口を糊むるの窮困堪難きが故。僕を商家  
 の奴隸に仕さしむ。于時十歳奉仕の寸間。先師  
 の書本を得て習ふ。と雖。性來拙く。能書の域に  
 至る事幾遠し。或人謂く。書に姓名を記せよ。足



たり。不如文と學ぶよ。僕此言と可と一と  
ヨモツ 經籍  
 と學ぶんと欲せるよ。自由と得む。然もどる素  
 懐止と得む。新古の小説通俗の稗史。虚實諷諷  
 と論せむ。目よ觸る者悉く誦讀するや。毎編夜  
 と以て日よ繼ぐものから至然。勸懲の一端と  
 知り略黑白と分別よ至きり。然もどる一と端と  
架空 架空の冊子よ光陰と費し。正史よ知識と弘む  
子ナシ 能とど。星霜十年奉仕の期限稍く満る。家よ  
 歸ると得と雖此期老父病床よ卧し。活計の

道と断ち。復學むんと為るよ。財よ乏しく閑と  
 得む。母の前よ故有り。家よ在らむ。幾程もふ  
 く。老父没せしより。愚妹と他よ嫁し。二弟と他  
 よ奉仕令め。其家を去り。親屬よ同居し。生  
 産と營まんと欲せるよ。稗史の弊害身心よ膠  
 固し。商法の思慮疎く。碌々として空乏たるよ  
 り。遠く僻境よ。伶俜ひ。櫛風沐雨困難と極め。賤  
 業羞耻と盡し。辛うと東都よ復り。知己の扶  
 助と得。且其紹介よ依り。書買某の需よ應。卜偶



然見戲の冊史と著るる。僥倖よして時好よ  
 協ひ。輟鮑の一滴。飢雀の一粒。及ばざり。而  
 して虚名都下。流布。將よ初老の期。至き  
 り。豈本來の面目。あらんや。窮迫止と得ざらば  
 あり。方今進歩の秋。當り。文運の期。と雖。窮民  
 子よ學むせざるの親あり。貧兒の瞽者よ類せ  
 る。閱然忍ぶ可からむ。福澤先生。茲よ感ありて。  
 前よ世界國盡六卷と著さき。よ。絶小假字  
 と知る。而己の兒童輩と。して。際略地球上の景

状と解讀せしめ。大聲里耳を穿つ。の功業。將小  
 闇夜の。一燈と稱さべし。就中僕が此編を作せ  
 や。原來諸譯書の糟粕。ひいて得意の俗文各地  
 の名勝舊跡と。修飾し。粗其國勢風俗と記載せ  
 る。敢て彼書よ比較せんとの意。よ非む。月の平  
 原と照らさる。宜しく。燈火の歧路と行よ。便り  
 あらんか。如きと欲む。とあり。抑譯書よ二體  
 あり。一と甲と。一と乙と。其譯文。漢字と片  
 假字と用ひ。傍訓よ漢語と洋語と。専ら兼用と



る者ハ甲人勤學の一助たる樞要の具ホシテ。  
 現今翻譯の体裁あり其譯文專ら俗字と國字  
 と用ヒ。傍訓ハ洋語俗語と以テモ者ハ。西洋  
旅案内  
 世界國通俗訓蒙の老婆心ニ出テ。則ラ此あり。其  
 讀者として難湯の別あるも其益ニ於多る也。  
 都々甲乙有べからせ。任他僕ガ無學ある既ヨ  
 前條ニ演るガ如ク文育ニして書と綴るヤ一  
 犬の虚を吼え万犬實と傳ふの罪あり然りと  
 雖近來洋學隆盛ニ至リ一より諸家の譯書乏

一からせ故ハ矇昧たる雲霧と拂ヒ。清明天を  
 仰ぎ窓前一編を草止る得たり。文章俗體を脱  
 かきさるハ。己の貧兒等の机上ニ備へ。同病相  
 憐むの意を表せるあり。偶甲人の具眼ハ觸色。  
 其錯雜粗漏と攻論せらるバ。沈黙閉口只管多  
 罪と悔悟モベト云爾

皇曆明治第五壬申年六月

東京市民

假名垣魯文誌

西洋一千八百七十二年七月



世界都路目錄

○一之卷	亞細亞洲	五族全圖
○二之卷	亞細亞洲	拾遺全圖
○三之卷	歐羅巴洲	全圖
○四之卷	阿非利加洲	全圖
○五之卷	北亞米利加洲	全圖
○六之卷	南亞墨利加洲	全圖

頭書繪入略說 全六卷

附 澳大利洲

各色生於五

壬申夏秋 思成書

第一 蒙古種

又 黃色人種

第二 高加索種

又 白色人種

第三 以日阿伯啞種

又 黑色人種

第四 巫來由種

又 棕色人種

第五 亞米利加種

又 銅色人種



地 上 之  
球 五 種



怪談

1101



世界都路 卷一

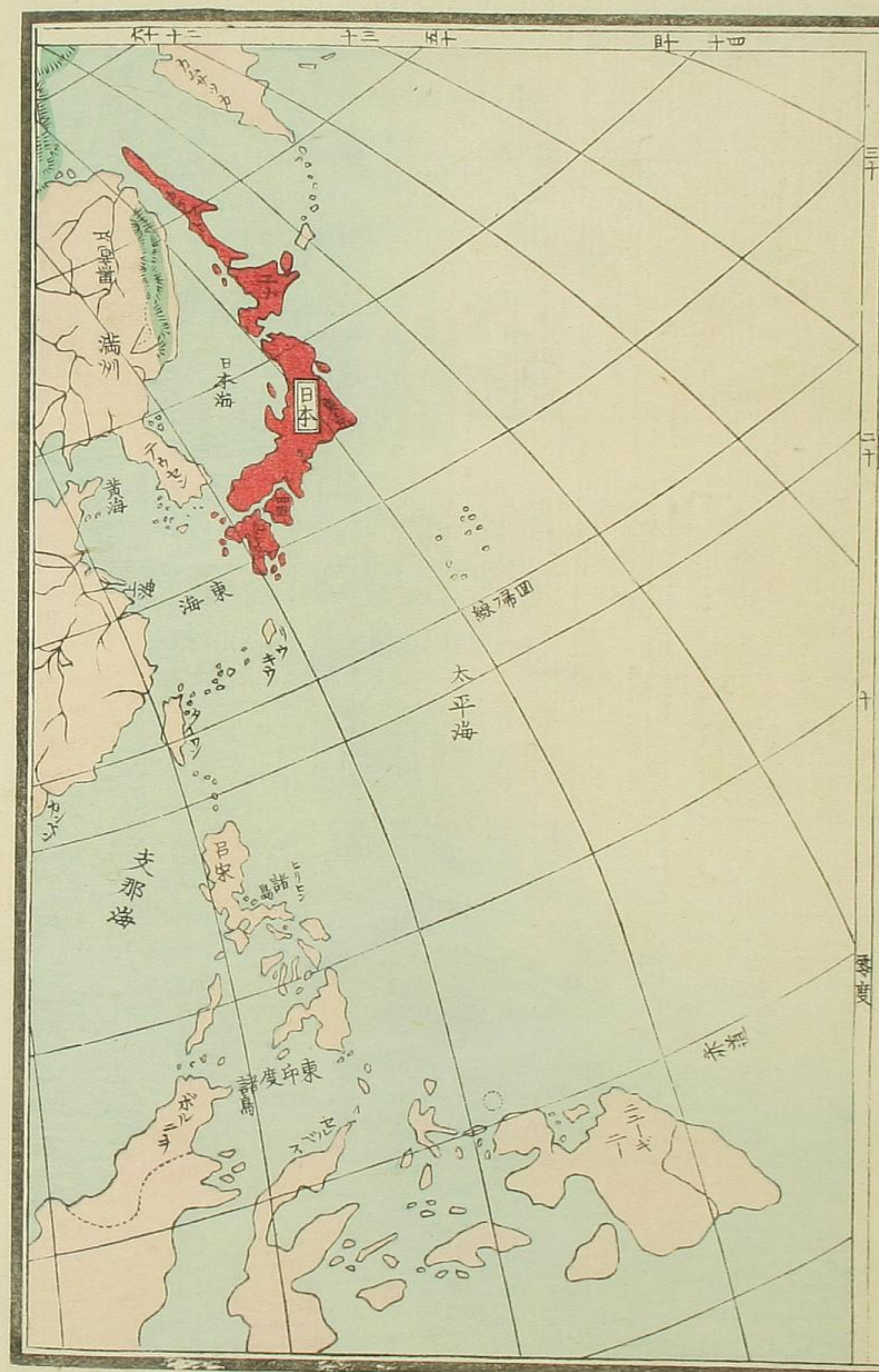
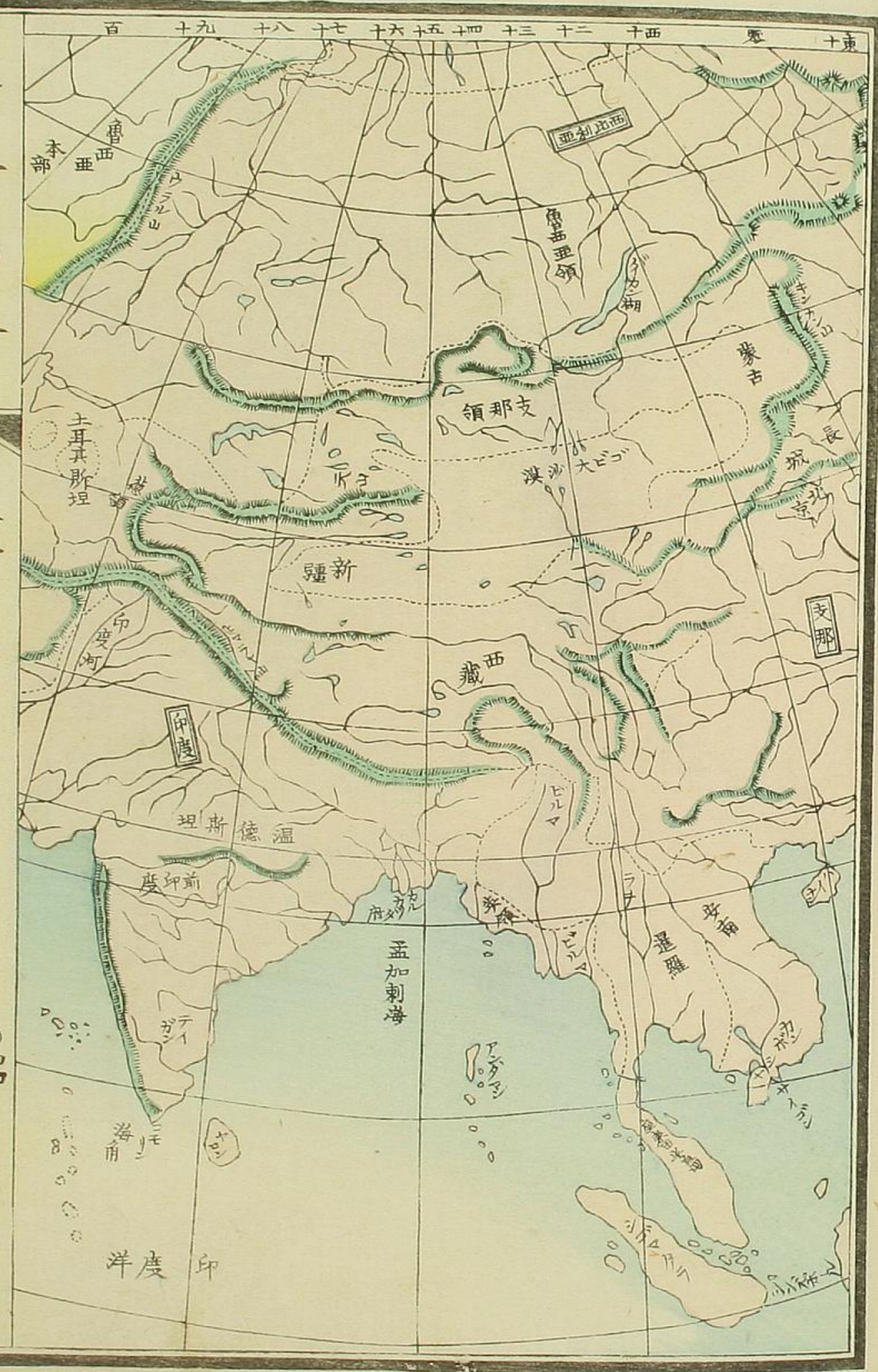


附言世界の人民其外貌骨格同（多ク）許多の種類有りと雖も其大綱と五種小區別べし○其一莫古種又黄色人と名く  
 亞細亞の中央より日本支那滿洲後印度の人種皆是なり  
 ○其二高加索種又白色人と稱せ歐羅巴の民皆此種に屬せ  
 ○其三以日阿伯啞種又黒色人と稱せ亞非利加澳大利亞の  
 土人皆此人種に屬せ○其四巫來由種又棕色人と名く略蒙  
 古種に似たり印度諸島及び巫來由半島の土人皆此人種に  
 屬せ○其五亞米利加種又銅色人と名く骨格蒙古種に近  
 し亞米利加の土人皆此種に屬せ（其本來屬する所の五  
 人判然之を別つべし）  
 以上の五人種互に小混交を以て次第に其種と混じりて來るを分む

# 亞細亞洲全圖

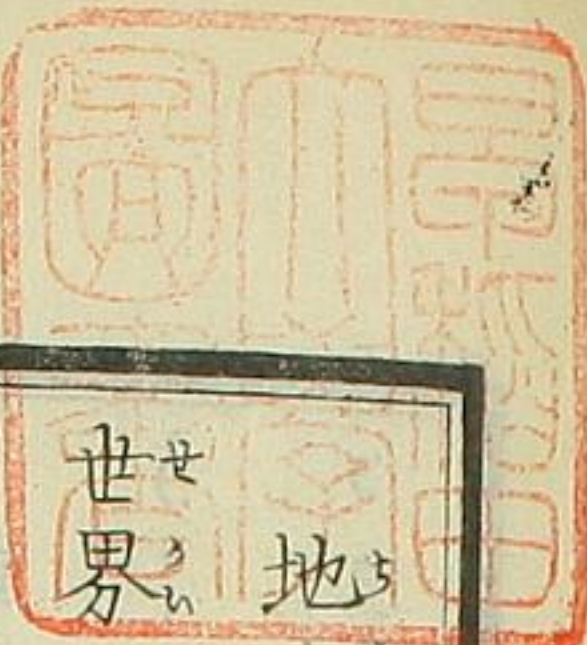


世界都路  
卷一



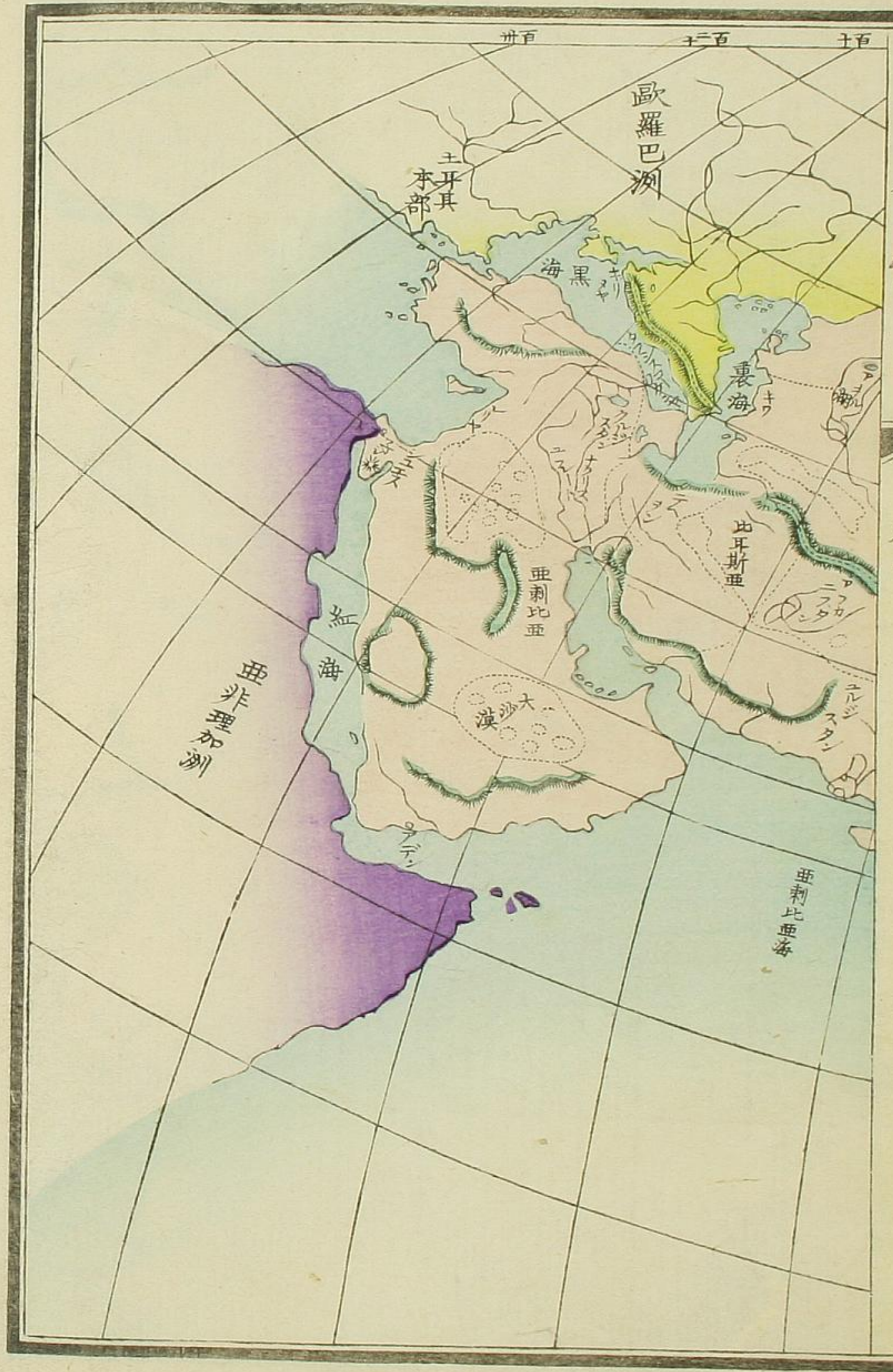
世界都路  
卷一





地球遊星の事  
 世界ハ遊星と唱る  
 星の一ツホ一ツ空  
 中ハ浮び日輪の周  
 圍を廻る圓き物を  
 う此遊星數多ある  
 中ハ大ひなる物ハ  
 唯ハ個の地球ハ  
 則ち其一ツ之周圍  
 ハ一万三百五十里

世界都路



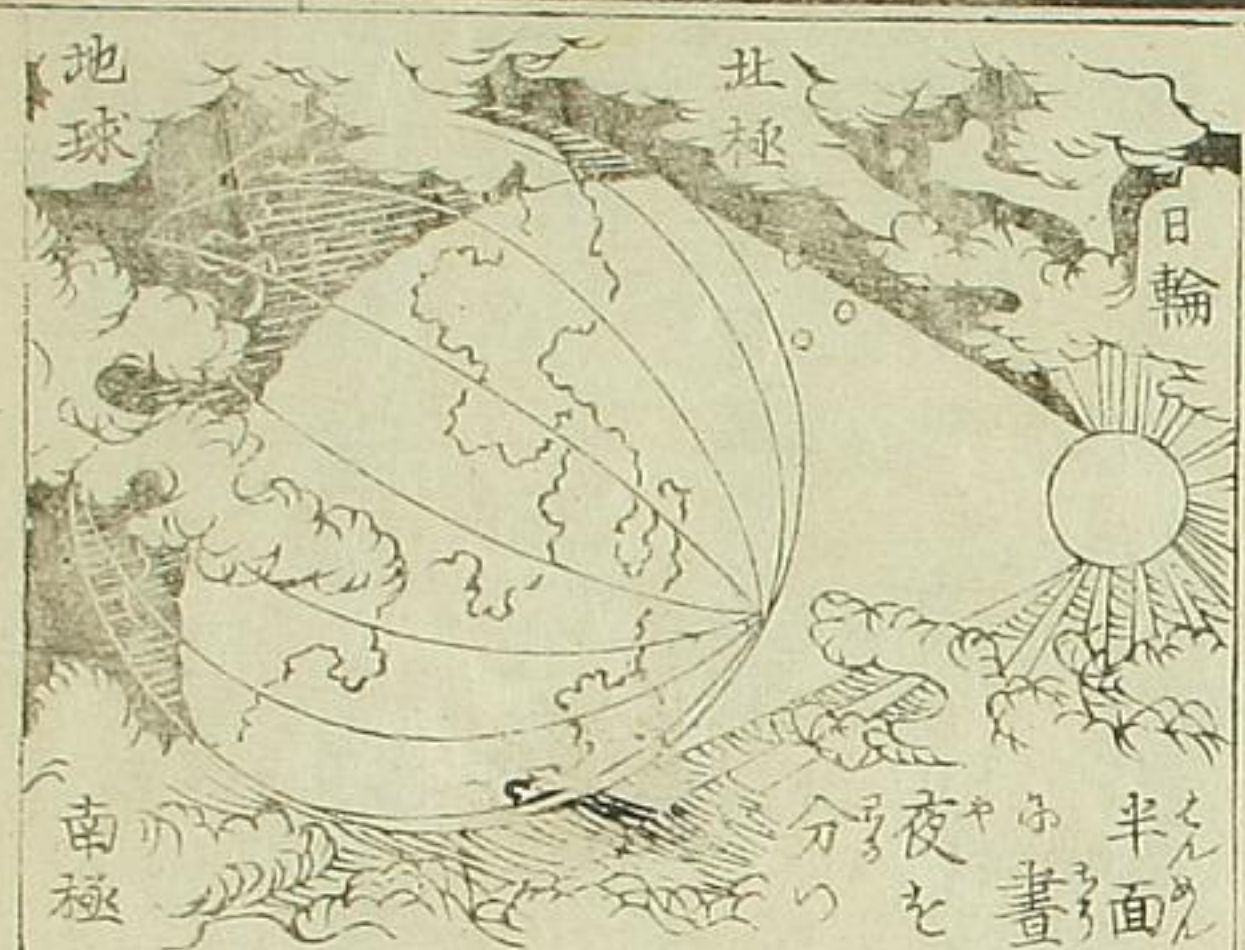
世界都路 卷一

世界都路  
 亞細亞洲  
 天津日の光を更  
 中ハ浮びなる  
 らハ亦也。故多ヲ純



余あり南北を軸こ  
 して西より東へ轉ま  
 び十二時の間ま一  
 廻りを終おることを  
 一多益夜と云斯轉まび  
 をがら三百六十五  
 日二分五厘の間ま小  
 日輪の周圍を一廻ま  
 りして本の處ところ小歸かへ  
 る是を一年と云此

星能くその一ツ球たまごなり  
 形象大世系六個むつ分わか  
 ち大洲社内小者おの  
 國民を保つ事こと王み  
 共如政そ能く去地ち插さす



間日輪小近ちかづき或  
 は遠とほざかり且其光  
 りを真直ま直ちか受うると  
 斜かた小受うると小由より

此こひく四季しきを暖あたたむ  
 是これ終つひぐ善よきも悪あき  
 我君の位みめが教しよ法ぽう  
 之これを記しるす  
 乃憲の戸と元もと時とき均ひとく



寒暑一様ならずは四季の變化是が爲に生るなり

六大洲の事

地球の上の水あり地あり水多く地少く大約地の一分水を分て六大洲と号く。亞細亞。歐羅巴。亞

并く文のり波動する日の本は東の東を首途としてを歩くや横濱に淡季の出る風をよく

非利加此三洲の地連なり又澳大利亞あり此四洲供の地球の東半面あり北亞米利加南亞墨利加此二洲俱の地球の西半面あり六大洲の内最大は成者亞細亞之次亞非利加と北亞米

一夜神は宿るむ長崎より能南崎西ふ傾く薩摩湯我國風り鹿ある琉球國中に在



理加と大低同ト又  
 之小次と南亞墨利  
 加と歐羅巴少其  
 中最小者ハ澳大  
 利亞あり  
 亞細亞大洲ハ東の  
 方大東洋小界ハ南  
 印度海西歐羅巴洲  
 小並北冰洋小界  
 此人種黄色其數四

山南山水三者  
 分つちるを府を首  
 里とよび氣候を何  
 寸暖く冬も雪を  
 越えりて雪を



億六千萬小下ら  
 他の人種を混ト  
 洲内亦在る者六億  
 人余土地の廣さハ

見しる例一存  
 封建世祿數一統  
 大中小を區別一  
 之を按目と号す  
 たる國乃周里比

世界邦略

卷一



千五百五十萬坪小  
 餘り六大洲の内一  
 番の大洲あり  
 亞細亞大小國嶋  
 ○帝國日本の大平  
 洋の西北隅の方小  
 位なる大嶋國小  
 と其西の僅小隔く  
 朝鮮小對し北の柯  
 太小連り魯西亞領

坡交三十餘り  
 六の島本邦乃  
 對馬より境に續ふ  
 十里朝鮮國を八  
 道小分つ府縣の系

と境を接し地勢幅  
 狭くして長く東京  
 と以て大畧其中央  
 とは全國の長さ五  
 百餘里幅三十餘里  
 の処より六十餘里  
 小至る國內を五畿  
 八道小分ち又八十  
 四洲と云西京東京  
 大坂の三府の中東

築その東北岸小  
 品海府釜山の浦也  
 鴨綠江去地を山小  
 續き海小流  
 形多小ら。度王と日本



京の目今帝都の地  
 小して繁花人口の  
 多き世界四大府の  
 五小下らば皇統の  
 萬古不易連綿とし  
 て今日に至る天神  
 七世地神五世無數  
 の年曆と經く天皇  
 の始祖  
 神武天皇の即位の

能く其の如く。角実合  
 乃世のるん。新故業  
 免く友を達し。支那  
 江の揚子江。乃  
 方の分流も。吳淞江

元年より今明治五  
 年小至るまで二千  
 五百三十二年百二  
 十三代あり



とそそ其昔。能く  
 名え高き。故に江  
 の跡や。如布帆。蒲  
 帆引揚く。号なり  
 河如。岸の柳



○琉球の日本薩摩の西南海上大凡百三十里許あり孤島あり長さ廿七里幅四五里出入此此外属嶋廿六あり此國昔ハ天孫氏久しく國王より七百餘年前内乱幾り國王逆臣利勇

乃竿さし亭。陸地  
村里を道とふ。眺むる  
する豆人。墨繪よ  
画く山水の風情を  
新也上海も。如きを

と云々者の為小弒せらるるが浦添の按司利勇を誅して王位小登る之を舜天王と號せ舜天ハ日本人源の爲朝の子ある事彼國史中山傳信録小記せり○朝鮮ハ滿州遼東小接して海中小突

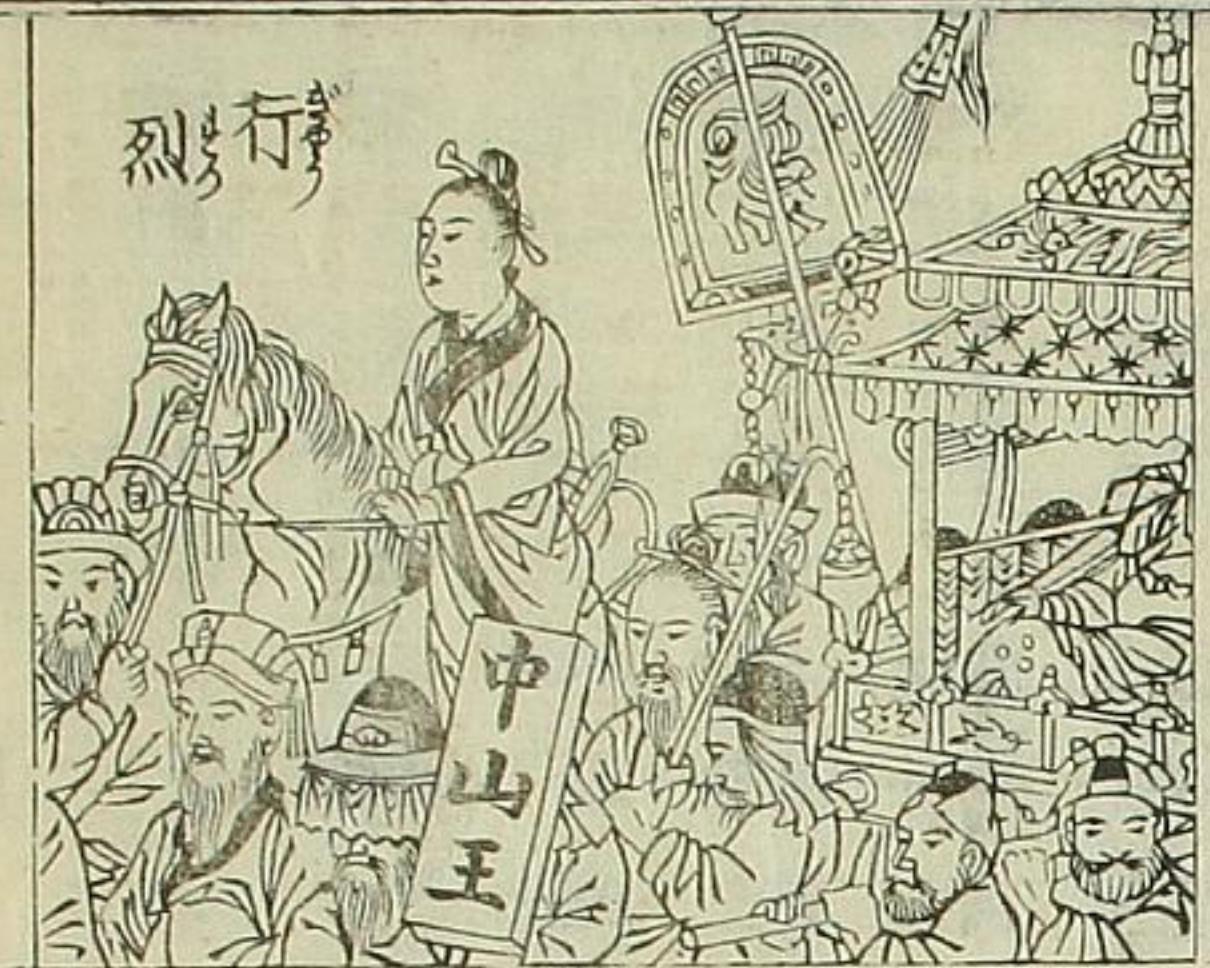
船の港也。西洋  
法國その國の高  
船を出つ。岸より  
連るる。及も。外國  
人の役部。その國



出たる長さ大凡  
二百里幅六十四里  
の半嶋あり本文の  
彼が固陋を論ゆ角  
実合云々とあるの  
地象の海角小擬と  
去る唱ひあり此  
國土地を拓きたる  
年代を詳めせざ支  
那の封を奉げ國を

乃旗章。飛らめ紀建  
し百少是。運上を石  
波戸場あり。路たひ  
らりり傳は様か  
弟波しるる音信

建る者箕子を以て  
始めとし初て朝鮮  
の号あり後小邦土  
分裂して高麗新羅



の便に能く文也。信は  
ま。一里餘り乃市街  
を。道に社が城の構へ  
ある。但古吳親蜀三  
の代。孫仲謀の



百濟の三部となる  
故に又三韓と稱す  
後又一統小歸此  
國千六百七十年前  
神功皇后の親征小  
より朝貢し近年貢  
と奉げて豊太  
閣小討伐せらる  
ことハ普く世の人  
の知る所あり

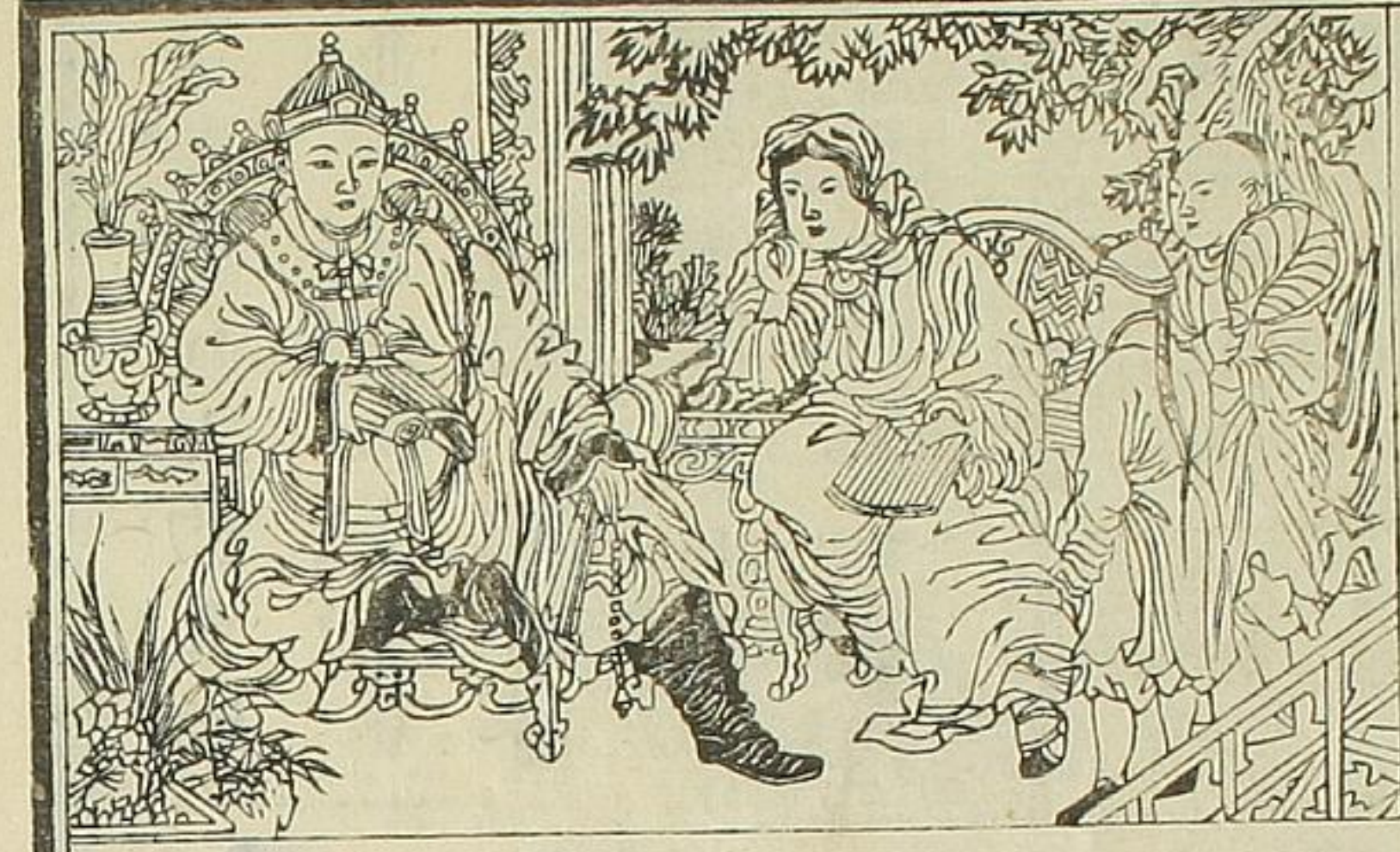
繩張一。建安城と  
名も高。周のふ  
築一。高城を。煉  
化石。く。豊。安。常。  
護。法。門。の。八。口。一。純。

○支那の大約亜細  
亞洲第一の大國ハ  
領地の魯西亞  
の次お色ども人口  
ハ之ハ二倍也城内  
ハ十八省小分り其  
中大小の都府數を  
知らむ其名高き者  
北京南京上海等也  
上海ハ南京の南七

刃。能。鋒。を。飾。る。建。方。  
右。小。兵。卒。を。め。り。漸。  
の。法。を。中。修。る。高。家。  
店。立。筑。屋。依。て。立。寄。る。  
門。を。皆。獲。し。徳。果。因。



十余里在り我長  
崎より海路大九二



新嘉坡。於此。昇西者  
以通して。群集を  
亦も目智昔。扱  
城外。路廣く。魚  
野。草の市場あるも。

百二十余里あり  
揚子江の口より二  
筋ありて。沂の  
港あり此地二十余  
年前始て英國の爲  
小関きたる比人  
烟甚ど稀あり。ガ  
近年英人を雇ひ  
支配せしめしより  
貿易繁盛し至り人

百里。海を江に傍ひ  
る。わろそ。渡る。新大  
橋。是より。出ん。お。産  
と。歌。舞。妓。芝。居。の  
産。見。阿。羅。漢。の。陣。行



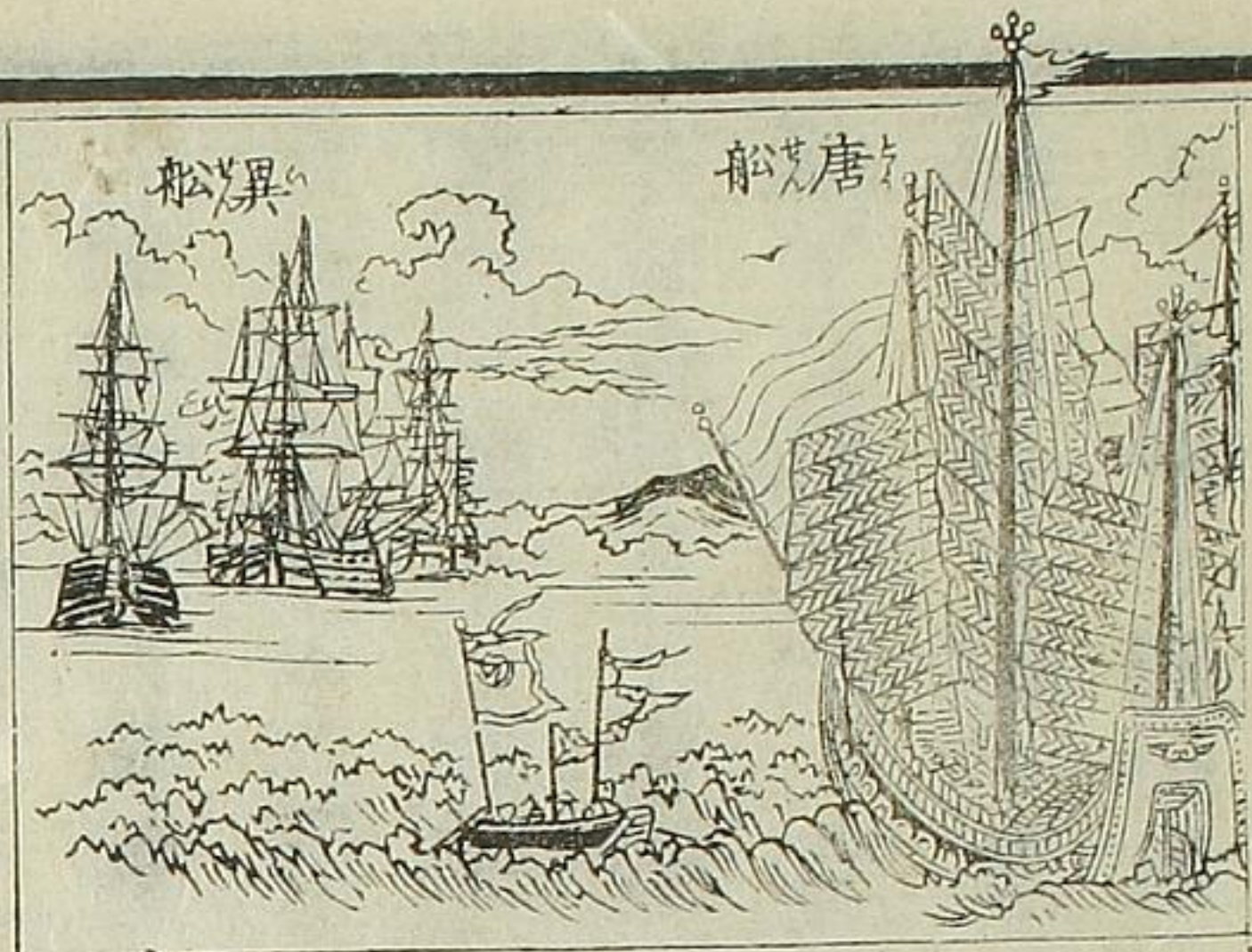
口五十万小下らむ  
 當時支那十二港の  
 第一なり  
 臺灣モサル又東寧嶋  
 と訓を福建の東南  
 岸あり長さ九十  
 八里幅三十余り西  
 部の支那に属せど  
 も東部の未属せど  
 し處々小村落を

繁華を極めし事。  
 此地を去るるに百里。  
 明末清の代の始見。  
 種を倭法國性各。  
 郊外切ふ荒れたる。

をあり風俗甚と卑  
 く氣候暖熱草木繁  
 茂して果穀を産む  
 又瓊州嶋あり廣東  
 の海角を離る事  
 僅小七里大サ臺灣  
 より差小あり氣候  
 同トく産物多く内  
 地の土人小属し海  
 岸の支那の居民海

あり。海峽を横り  
 見く。南より来る者  
 港も支那。廣東の  
 地人なる。海は深  
 る。孤島。亞細油乃





賊を為と者多し  
 香港の廣東の河口  
 小島あり長

我ひ小級くふら花  
 英吉利の所領と  
 其の地は  
 開きし道路となす

四里餘幅三里小満  
 たる全嶋岩多し北  
 岸小傍て港あり港  
 内廣深し地勢亞  
 細亞第一の碇泊場  
 と名府を維多利亞  
 と名づく人口十二  
 万五千大略支那人  
 あり其四分の一  
 皆船の内小住居を

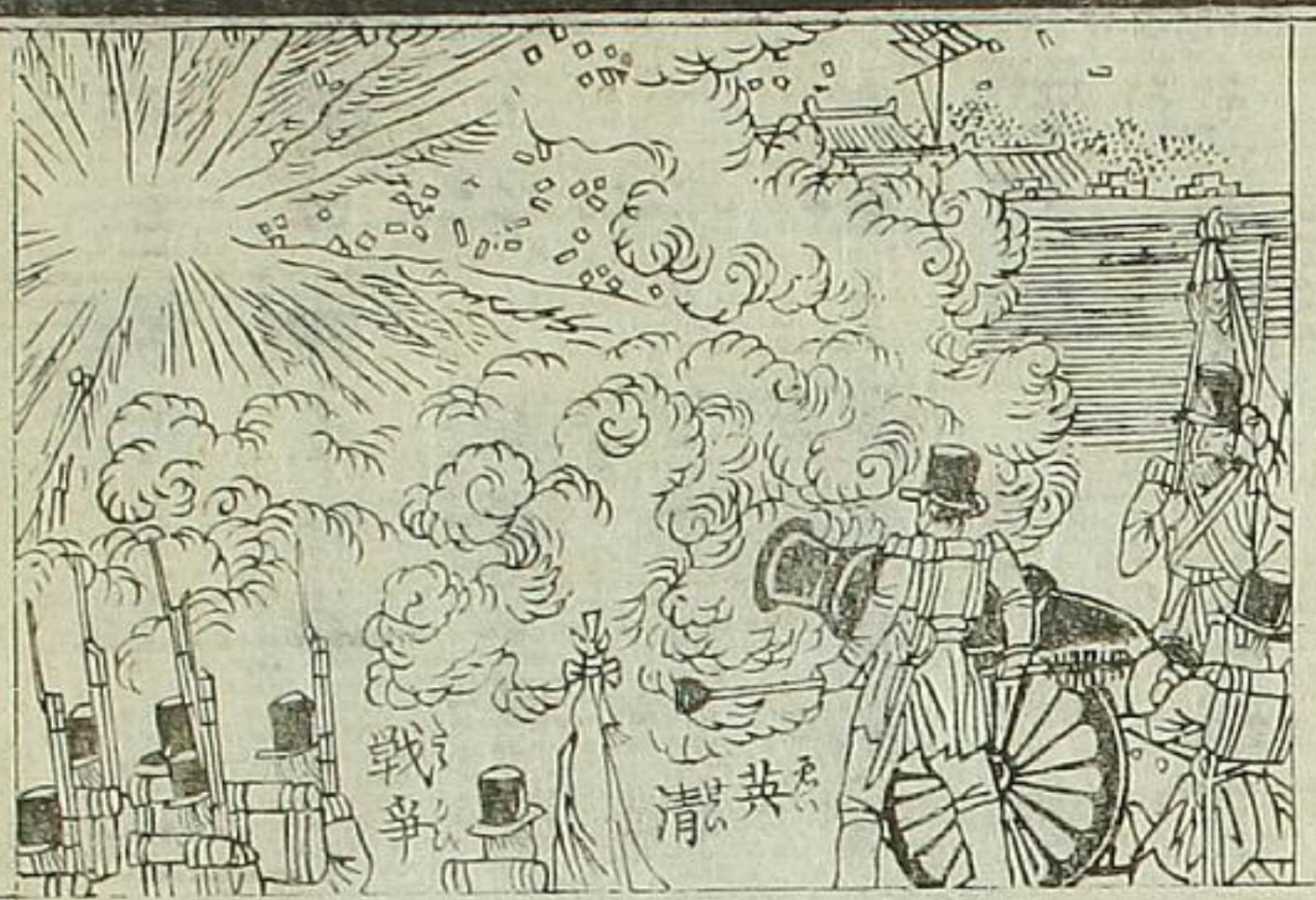
海を塔めて家を築  
 其の角形燈台島  
 玉の宮を築くを志  
 ら波やひまをさるる  
 能林を築くを



此者なり此地鴉片  
烟の戦争和議の後  
永く英吉利の領分  
小歸し英國より鎮  
臺を置く之と管轄  
を常小數多の軍艦  
を繋ぎ支那海警衛  
の要地と我長崎  
より海路大凡五百  
里余なり

形をあり。生身を愛重  
し。好む。曾て。井仕土  
木乃切と仰と高嶺  
を。太平山登り。一里の  
嶺。旗を掲げ。て

支那清朝近年数々  
英國と戦ひ毎度敗  
績と國の勢ひを折



入船の目的となつ  
沖津崎。一。百帆  
影也。海原の眺めを  
能く。ぬ。備え。たる。字。  
山を。り。る。そ。遊。後。の。



かき盟約小背き外  
 國の侮りを招くと  
 と多し初度の戦ひ  
 は今より廿三年前  
 小在り從來支那の  
 官吏私を行ひ外國  
 人を蔑視し夷狄と  
 卑め禽獸の如く扱  
 ふより林則徐と云  
 人廣東を督き小

設も能なるの花  
 の香よりそ木の香  
 を去らむ。元来暑  
 熱去地なるべき。夏  
 涼しきを占むる。象

及び年々英國の所  
 領印度地方多し  
 産毛鴉片烟人の  
 身亦大毒ありとて  
 嚴く禁じたると支  
 那の民深く此品を  
 好むより英人も多  
 く利ありを以て内  
 密に賣買せむこと  
 露頭して林則徐大

花もなると酒出せ。  
 茂る大樹の蔭に  
 と。日陰の懐も玉簪  
 綏掛者も結張の  
 園扇も蓮蓬とる深



七世... 者... 品... 卷...

ひお怒りて英船... 積貯へたる鴉片... 千函を焼益せし... 英艦数艘... 清より和を乞ひ償... 金二千一百万弗と... 出香港の地を割

了。家を容態を具... とするも英本國の... 諸友人が地居る... 駐鎮台府大審院... の裁判所英漢及び

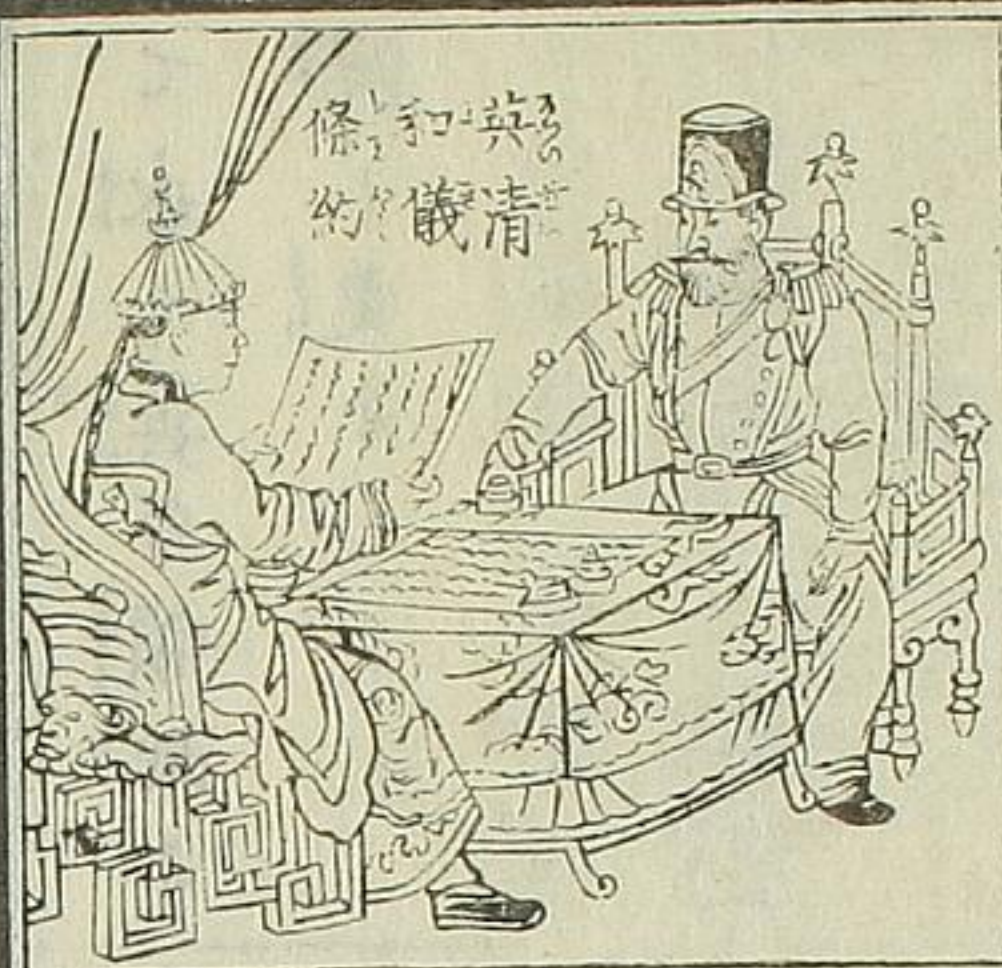
て永く英の領地... 歸一更ふ... 廣東 厦門... 福州 寧波... 上海... 右の五個所の港と... 開きて通商の地と... 為ると聴濟めり其... 後十七年經廣東... 於て英清行違ひの

法学校造幣新聞... 兩局ふたふ博を... 病院も晒歐洲の... 政體と摸しく... ある者をか抑支

世界... 路... 卷...



事起り支那人英の  
商館を焼くより再  
び戦ひを發し英の  
軍艦處々の炮臺を  
毀ち廣東を燒夷ふ

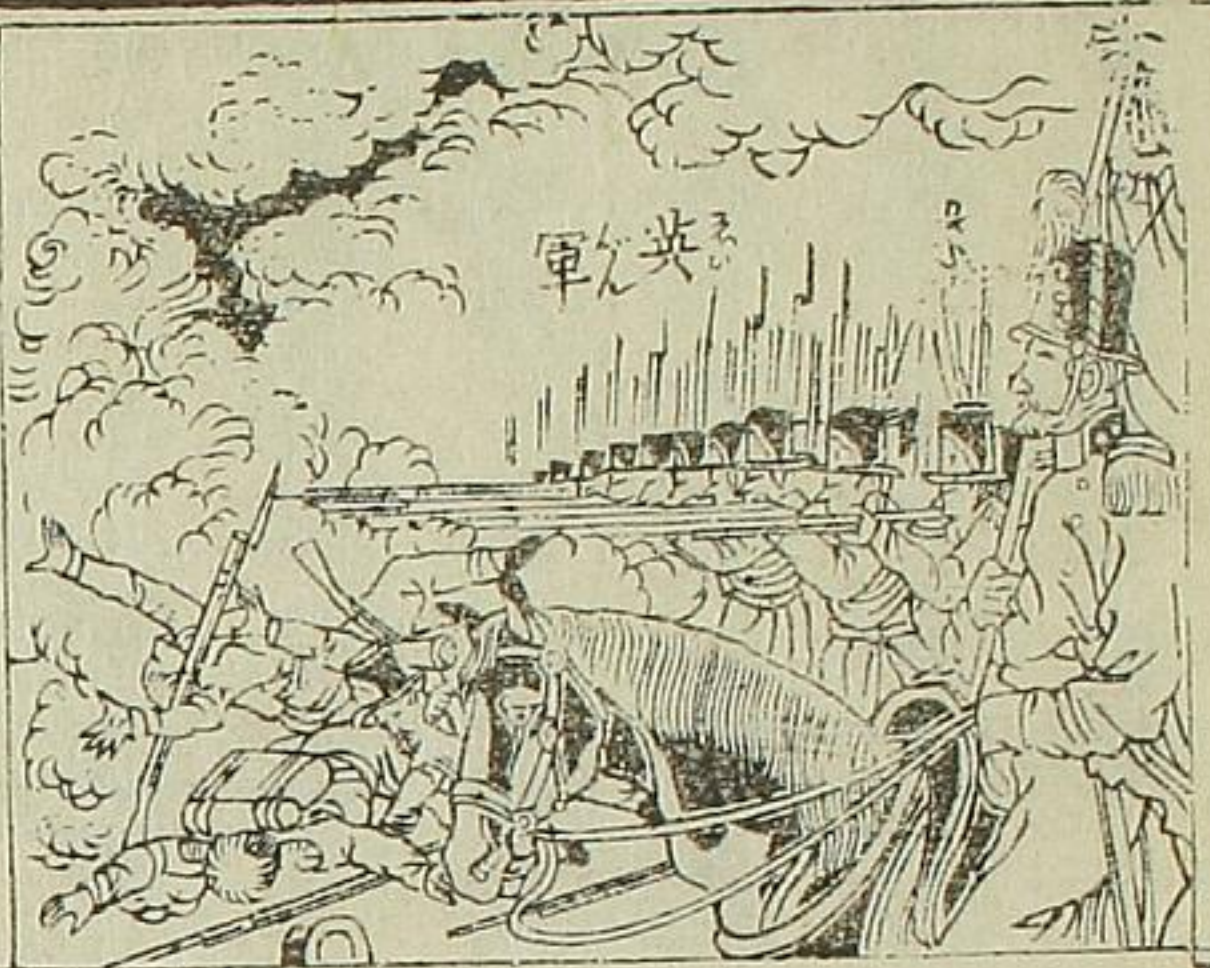


那を亞細亞洲之分  
の二を保ちつて世界  
をめぐり魚日西亞領  
乃次に入庫す大國  
也。其小知らきるる。

小至る此小於て清  
朝又許多の償金を  
出し改めて條約を  
結び和を講せり  
今より十二年前英  
の使節條約の事小  
付天津小至る途中  
支那人欺き不意  
小撃しより英人死  
せる者多く使節の

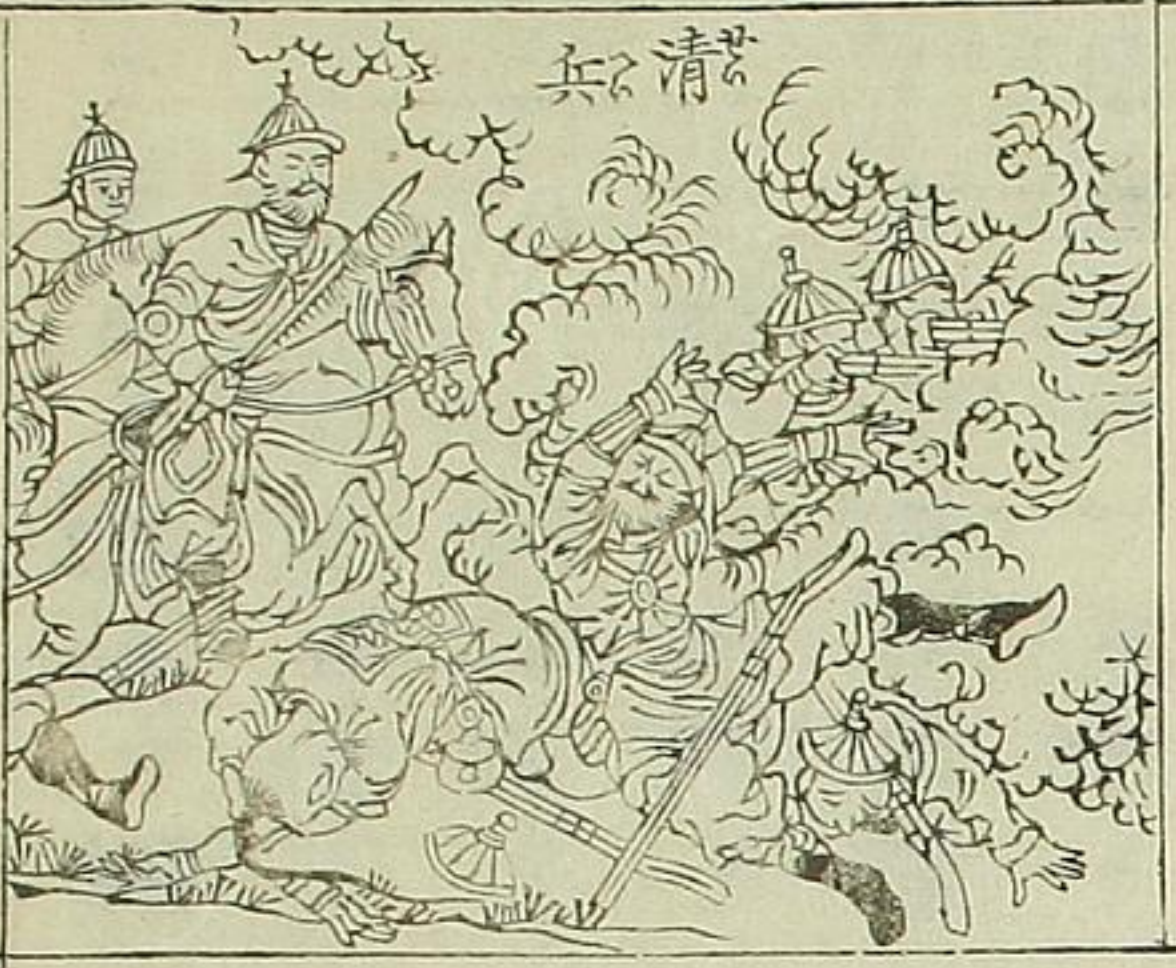
塞外は地方合を  
東は西に尾二千里  
南北の幅八百餘里  
と人口四億零四百  
六十萬と云ふ也。





全權も終身を道  
もて逃歸る小至  
り此時佛蘭西國の  
使節も又共小此難

北より西比利亞東南  
を日本海も支那  
海も印度西方  
支那も屬きぬ獨  
立の韓疆界も境



小懼る小より其翌  
年英佛合併して二  
萬の兵を發し軍艦  
直小天津小上陸し

して長城内を本  
部也。唐虞社  
古物也。星宿  
今も代も清  
号も帝國の頭



て大い小清兵を敗  
り遂小北京小通り  
帝城を焼清帝辛う  
トて満州の地方小  
道逃る小及び其弟  
恭親王和を英佛小  
とふて一千二百萬  
弗の償金を出し前  
小開きたる五港の  
外更小

吳る後系域内純  
饒ゆたのり十八  
省小地を分ち大  
都府の教多き中  
尔名をき北京を

○牛莊 ○登州  
○台湾 ○潮州  
○瓊州 二其他  
等の八港を開く小  
及べり  
支那の北京の國帝  
の都城小して英の  
倫敦と共小世界中  
の人口多き都小  
て繁昌の地あり北

京の在は城りて  
なる死を連る白  
府人口二百五十萬  
雪小後身一了外郭  
九門府内花を



京より杭州府まで  
 大凡七百里の間堀  
 破の運河あり之を  
 御溝河と云土地柄  
 の砂の平地あり萬  
 里の長城より六十  
 里余も南の方へ  
 東の海より八  
 里をかり隔ちた  
 り元來二個の府並

建つら好する殿造  
 學校寺院庭園  
 の多きものある物  
 教養あり。土俗より  
 文華盛興の風俗

び建ち二府共小廣  
 大ある構へあり  
 城の周圍小高堀を  
 築き支那人と鞞靴



太平王  
 長平王  
 乱妨賊

其俗又小中國と  
 自倚暴慢の心を  
 外を視るごとく禽  
 獸に比しと夷  
 狄との後一多し。



人と二別て住居せ  
 り支那帝の祖先の  
 韃靼人を是にたる  
 べし  
 天津は北京の東南  
 三十二里北江河の  
 辺にあり氣候は寒  
 暑共小甚しく民口  
 百万ありて繁昌な  
 る府を是とる市街

館ひ我悔むを  
 亦一陛下の言  
 殿は金銀珠玉を  
 寶をちりまを  
 飾る社教の

の汗穢しき所の  
 多し此港は十年前  
 より英國と通商の  
 為之を開き各國の  
 商船あつると此  
 貿易盛んからむ此  
 地外國人の居住多  
 き也支那人彼宗  
 門に歸依する者あ  
 り然るに我明治三

小池水の流をめぐ  
 りて新橋と花米  
 香子好強のつた  
 縁ぎらる眺あり  
 街の家並より橋を



年庚午の夏六月の頃此土の攘夷と主張するもの黨を結び佛蘭西人の男女二十四人を殺せしむるが居留の佛人驚き怒り既小大乱を生せんといふ此の時佛蘭西の本國は普魯士國と大戦争

平屋を造る如し。又天津の枝河ふ樹渡したる橋梁の長さ七十余丈あり。皆大石を以て築く。

の家中あまはこと内々ふて濟たり。い最危かり。南京の支那本部の舊き都ふて北京の對する大都會あり揚子江の右岸あり南小當りて上海の港へ七十余里我長崎と相對して海

白帆を以て獸類を形象を刻し様子を装る巧の細やうふ。は東洋の岩のそる。韃靼町と名も高し。



上三百里之名勝奇  
 觀と称する者最多  
 かりーが近年長毛  
 賊の兵火小羅り消  
 亡たるより府内三  
 分の二の空地のと  
 有て衰へたもと賈  
 易の繁昌一文章風  
 流の地小一と詩歌  
 と唱へ章句と綴る



○阿片たむこ

雅人の閑居する者  
 多し  
 支那近來内國諸處  
 小賊徒蜂起して常

その外町の教はく  
 貴人妙習福を  
 あべく。むすぬる眼案  
 の坊間お等しく  
 垂る辨後い柳の

枝の春風ふ靡れ  
 と教と安たわ夜  
 お對する古用京の  
 ま都の名残ふく  
 揚子江なる南岸の



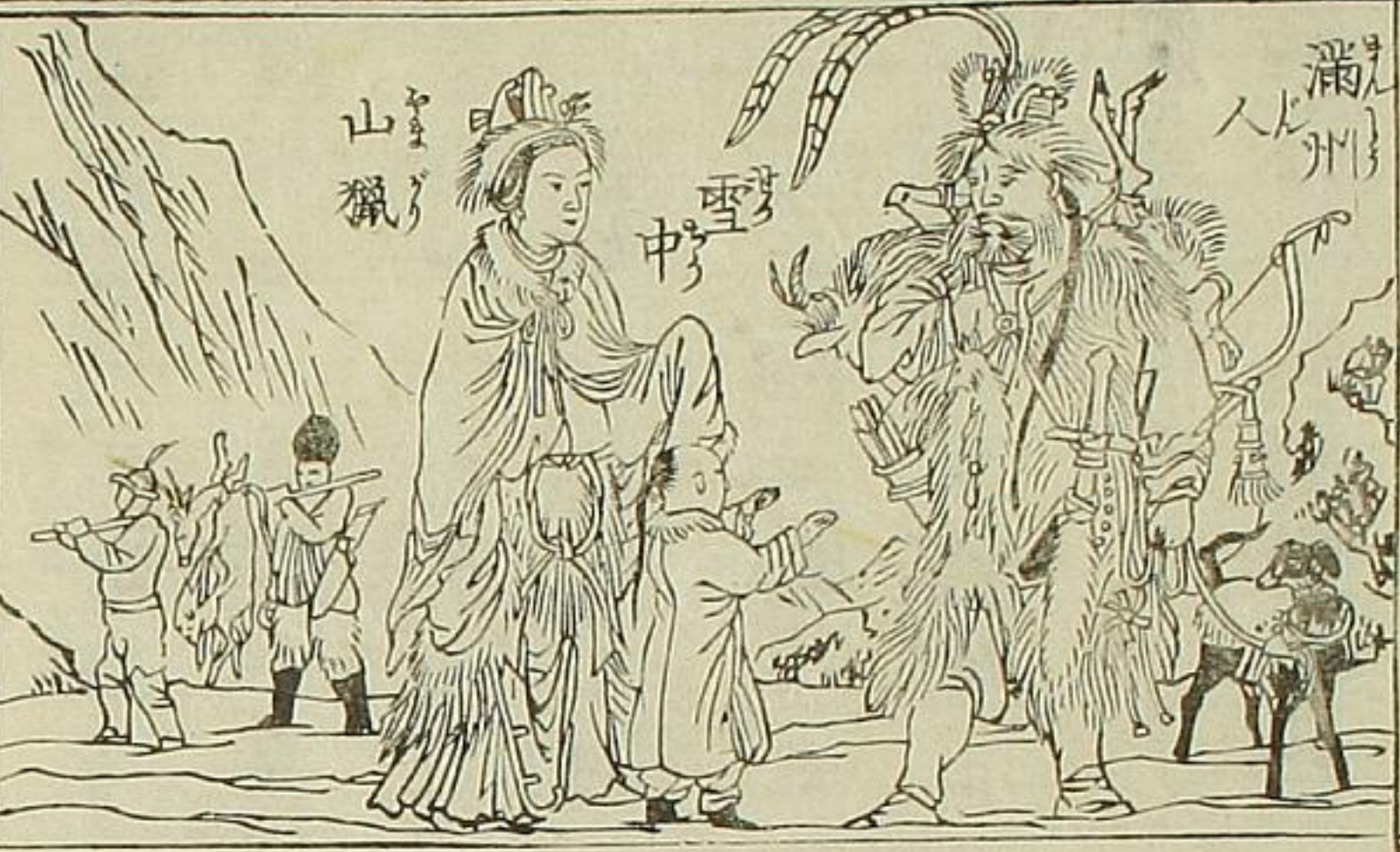
小平穩ある年少く  
其中大ひあると長  
毛賊又長髮賊とよ  
以て二十余年前よ  
り江南の地を煽動  
し其勢ひ猛烈小  
て自ら王号を称せ  
る賊魁多く終小南  
京を陥入る太平王  
と称する者此小都

瀨ふ脩かく九十四里。  
高き四丈の外郭城  
門十二の通り経る道  
程七里ふ解あり。  
當時人口四十万あり

一近隣を奪掠する  
其餘災甯波上海の  
辺小及び十餘年を  
經る平ぐる能はざ  
りしが英國米芻の  
士官支那政府の兵  
小力を戮せ終小之  
を討亡して鎮靜を  
る小至る  
支那の産物多き中

小高き丘ふ建寺  
後寺塔華嚴ふ  
て。風流玉雅の古地  
有るを博士文人  
軍をぬむ。任ひも多





小茶を以て第一と  
其國益を為す甚だ

夕路清く。市店ふ  
おまき書林紙墨  
事也陶器製工  
佳品の品方なり。を  
購ふ者多し。のき。

多しと銀大略之を  
鴉片は云ふ失ふ鴉  
片の印度中庭の  
産すると金前印度  
孟加拉又ベン 州を以  
て第一とモ英船の  
毎歳輸入る所夥し  
近年の戦争以來  
其禁止を廢して公  
然て之を賣買する

名所舊跡あり  
ま。觀物もある  
土地なるが。長後  
絨の私事。兵火  
能成と消る。



故小國民の害も  
 多きを知らず  
 鴉片の烟を喫  
 る時精神恍惚  
 ありて眠るが如  
 酔が如く其味忘  
 難とど一度之を  
 嗜む者の身體小  
 あるのよあらば  
 困小陥ると厭え

貴國さうさうこの  
 王。但他の貿易の  
 已見くも絶るなり。  
 支那海岸の交  
 易場西洋諸島の

衣食を缺甚しき  
 愛子を賣て之を換  
 終身止ること能  
 せと云ふ恐きても



其れ為る。近頃  
 と十三支國の利益  
 能多かれず。民の鴉  
 片を好むより。結ぶ  
 手許り水浅きを。



怖るべく我國民謹  
身戒心の第一小加  
ふべき此毒烟の  
災害あり  
○韃靼と名づくる  
地方の支那及び印  
度西藏の北西北利  
亞の南又東の日本  
海より西裏海に達  
する亞細亞の中央

原より度る我は  
多る。務待て交嗜  
む者。牙能ふ害ある  
の。なるは。その味  
ひの。忘る。縁衣食

小して東西大約一  
千五百里連且地方  
の總稱あり其中天  
山以西の部の支那  
小属せ之を獨立  
韃靼と稱ふ其他伊  
犁蒙古滿洲朝鮮等  
を皆支那韃靼と号  
し支那の版圖小属  
を其中滿洲の近來

を缺く。おもむき。是  
終り。智く。あり。果  
と。家と。失ひ。百歳  
の。方と。と。より。子  
屋。并。化。次。方。小





大半魯西亜領小歸  
一たり北方の阿爾  
泰の連山并列して  
魯西亜の国界とあ

をこり。家國人  
心。既に前車  
の覆ふ。取身を見  
写つおのづから。後の  
車に戒多んと為す

一南の崑崙山の脈  
西藏國の境界を隔  
て中間西より天山  
の群峯連綿と内地  
小直り其間平原多  
くたまく膏腴の地  
面ありと魚才壁或  
ハ瀚海と名づくる  
大沙漠有りて東西  
五百餘里小跨り南

沂沭あり難を控  
忘るること勿きめど  
玉々々小江の南の  
岸の天津も人口  
万好威の港あがら

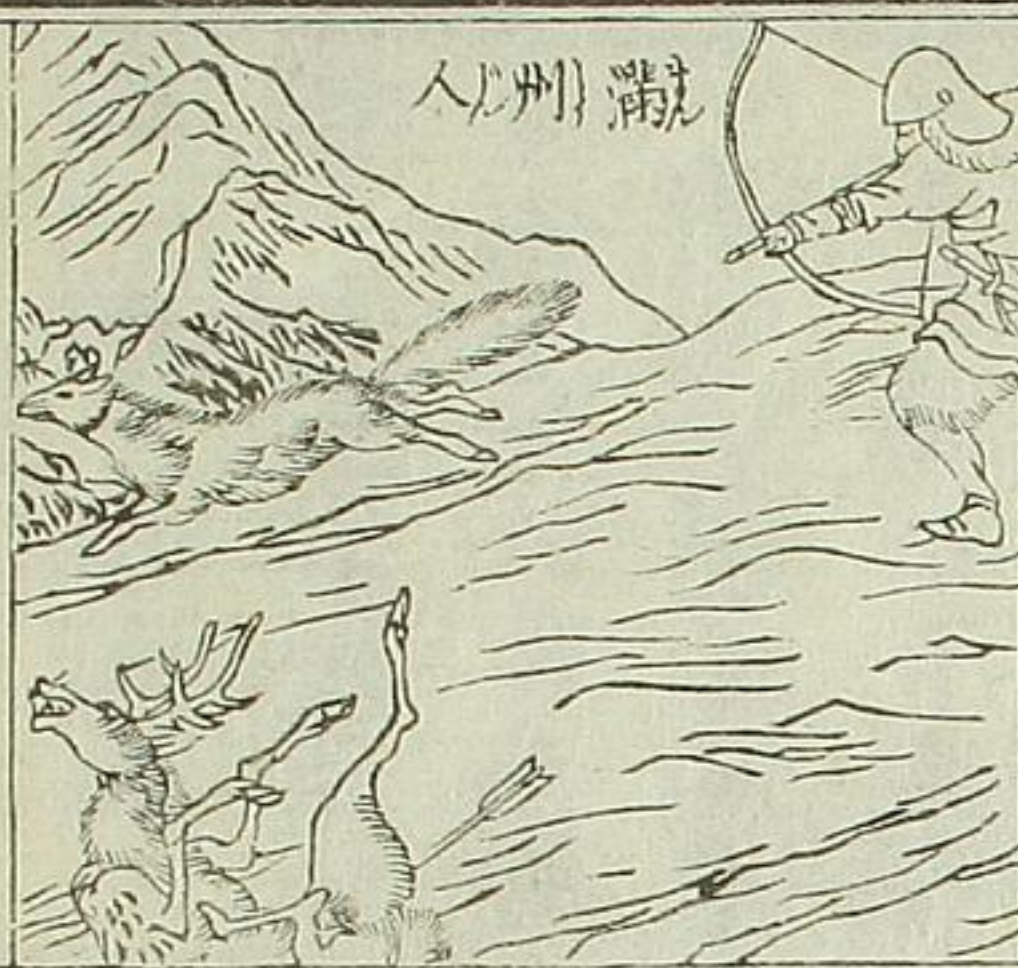
世界地理

卷一



北二百里より二百  
 七八十里小達を大  
 澤湖水處々あり  
 各地部落を分ち村  
 落小住居する民あ  
 り又水草を逐て住  
 居と轉て野蠻多く  
 人口土地の大サ小  
 比ぶ色は甚ど劃一  
 ○滿州の支那東部

市街を續る  
 聖塚山を以て  
 面を背く針  
 あり。寧波厦門を  
 北に變る。土地清



小して日本の對岸  
 小在り地勢の東北  
 興安嶺又ヤブの山脈  
 聳へ黒龍江は殊小  
 名高き大河小して

あり商人の屋を  
 其富むる民福  
 達也廣東府廣東  
 版圖より所を  
 投へ奉るなり



其下流ハ混同江と稱シ尼哥勞斯科の海峡ハ注ゲリ此州ハ元來清朝の本國ハ一々全クその版圖ハ屬セリが漸々魯西亞の蠶食を被リ又十年前より黒龍江の南海岸の地方朝鮮ハ接して又

す。あるの中へ  
韃靼の生一部を  
浦あり。東と少  
列々々。興安嶺  
脈は身一黒龍江の

魯國の版圖ハ歸モ故ハ支那ハ屬モる慶大略その半ハ過ギモ主府奉天府ハ清帝の祖先明朝と連戦一終ハ支那を併吞セ一逆數代都セ一慶ハ一々奕世の宗廟此地ハ在リ十二

水とを汲く流る  
混同江ハ尼哥勞斯科  
ハ海峡リ。注ぐ大  
河の瀬を連て二ッ  
リ分つ清朝の源

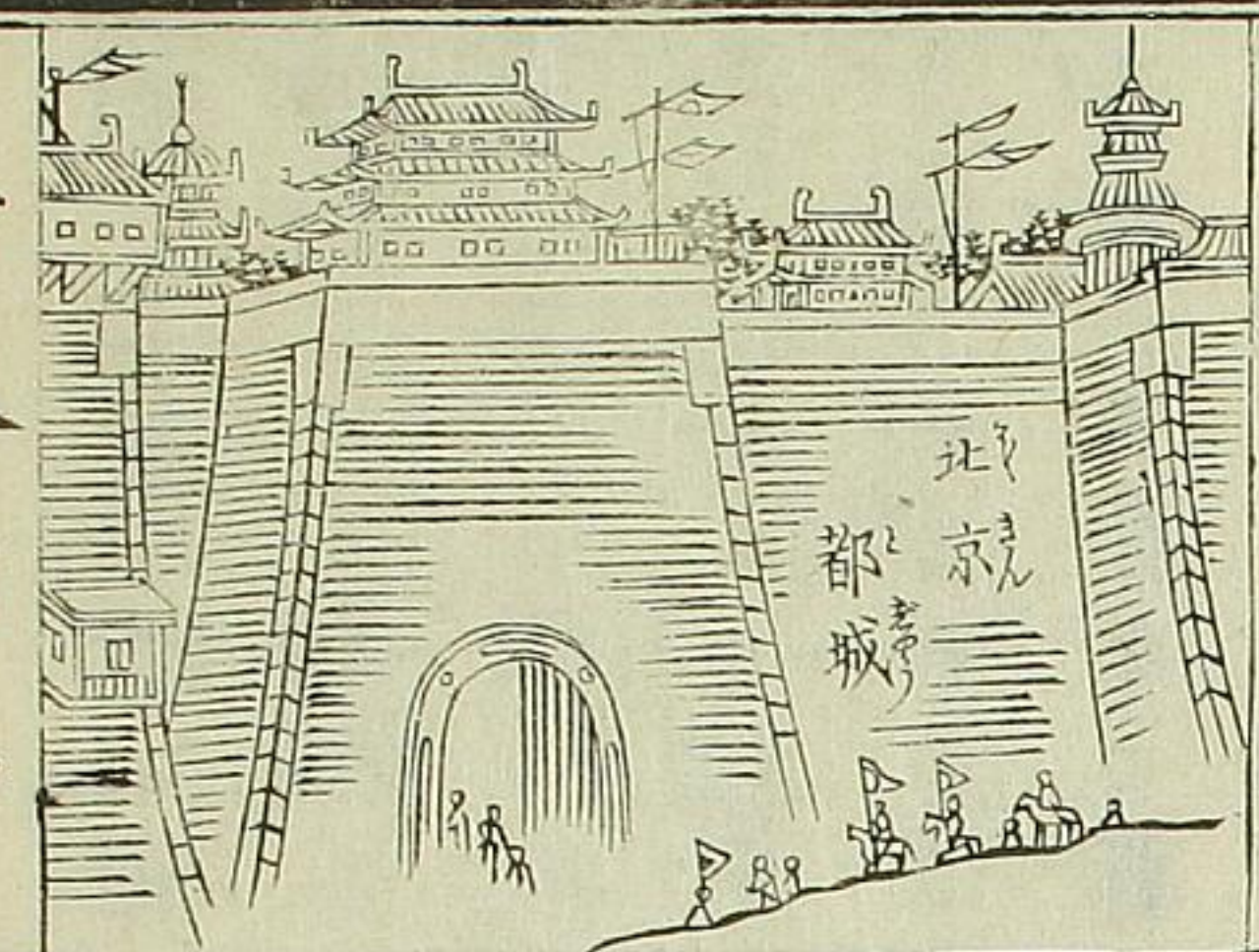


七身者此  
卷一

年英佛の強兵北  
京小逼うた時清  
帝遁逃て久しく此  
府止まらざり  
清朝の祖先ハ滿洲  
王中一と名を努兒  
哈と云明の萬曆四  
十六年ハ韃靼地方  
より大軍を發して  
明國ハ攻入り四十

國と一面なり。その  
領分ハ所あせしぐ。  
近以魯西亜の糧食  
を被りしより半  
を彼領地と我あり

余年の戦ハ小明と  
七始て支那を一  
統一國號を清と改  
めたり是と世宗と



世界  
部部  
各各

卷一

〇三十  
ハサ

りハ海一の都を  
奉天府支那の帝  
の一族を封じて國  
王とせしむ。言語  
も文字も異なり。其



稱一 年號も因て順  
 治帝とも云其次の  
 帝と聖帝と稱一 年  
 號と康熙と云博學  
 多識の英主かして  
 清朝二百余年の霸  
 業と與志し此帝  
 の才徳小依る清  
 朝順治元年より我  
 明治五年壬申まで

らぬ物も頭取友のこと。  
 この地遼東と府ふ  
 小京より是  
 東北二百五十六里  
 あり。大清覇業は

二百二十九年あり  
 清帝世系  
 ○ 順治 世宗在位 十年  
 ○ 康熙 聖祖在位 六十一年  
 ○ 雍正 世祖在位 十三年  
 ○ 乾隆 弘曆在位 六十年  
 ○ 嘉慶 永琰在位 二十五年  
 ○ 道光 宣宗在位 二十九年  
 ○ 咸豐 帝在位 十一年  
 ○ 同治 今帝 十一年  
 十一年小至る

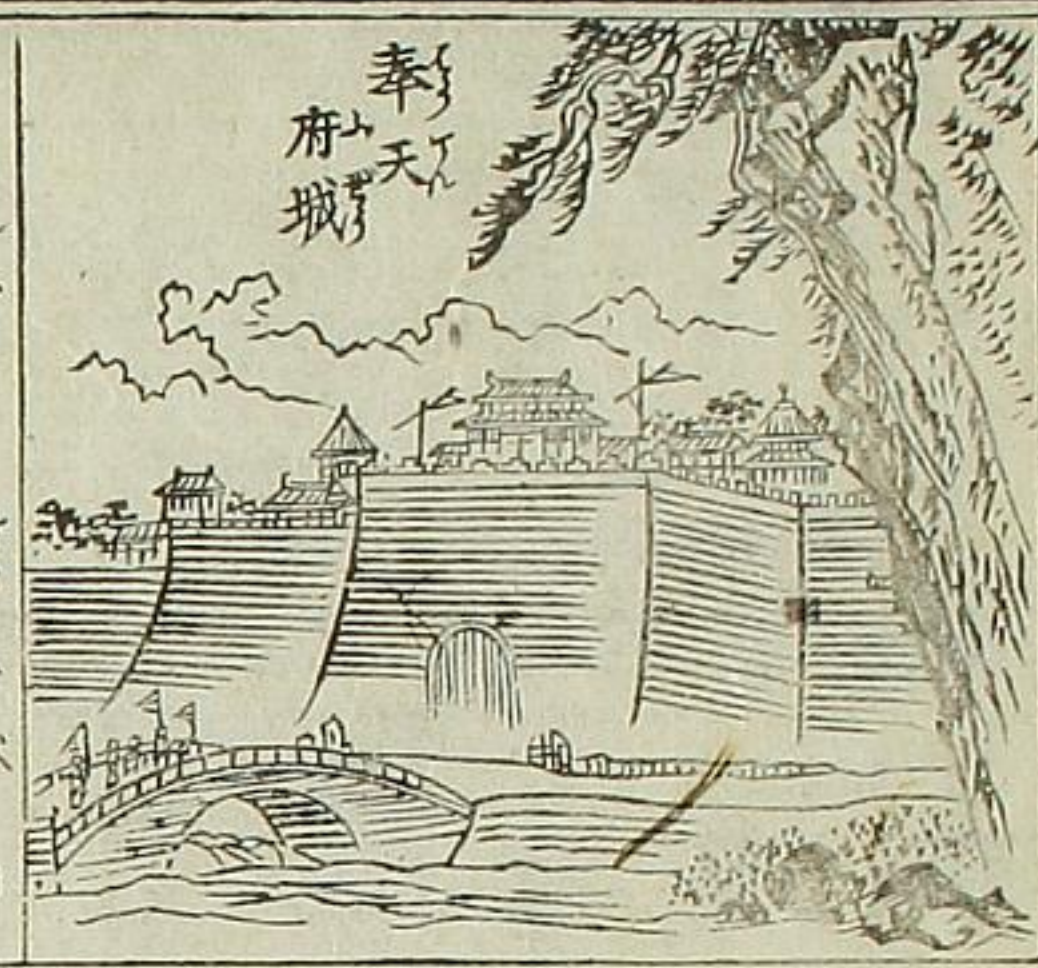
此は以て枝代は  
 都累世は宗廟友  
 り存るもとも也。南  
 の首府の吉林もお  
 へて清族王なりて。

世界邦略

卷一

○ 卅一  
○ 廿六





○蒙古の北西北利  
亜に接し南支那本  
部を界し東滿州よ  
り西伊犁を跨り廣  
大なる平原の地小

陸軍氏漸の要な  
里。蒙古より北方西  
比利亜に接  
し南方より支那本  
國を界して東滿

して其中小戈壁の  
大沙漠東西小蔓延  
土地を二分し別つ  
萬里の長城外沙漠  
小至る部分を内蒙  
古と稱し沙漠と阿  
爾泰山脈の中にお  
る地を外蒙古と稱  
す。都て外蒙古の喀  
爾喀人種多く水草

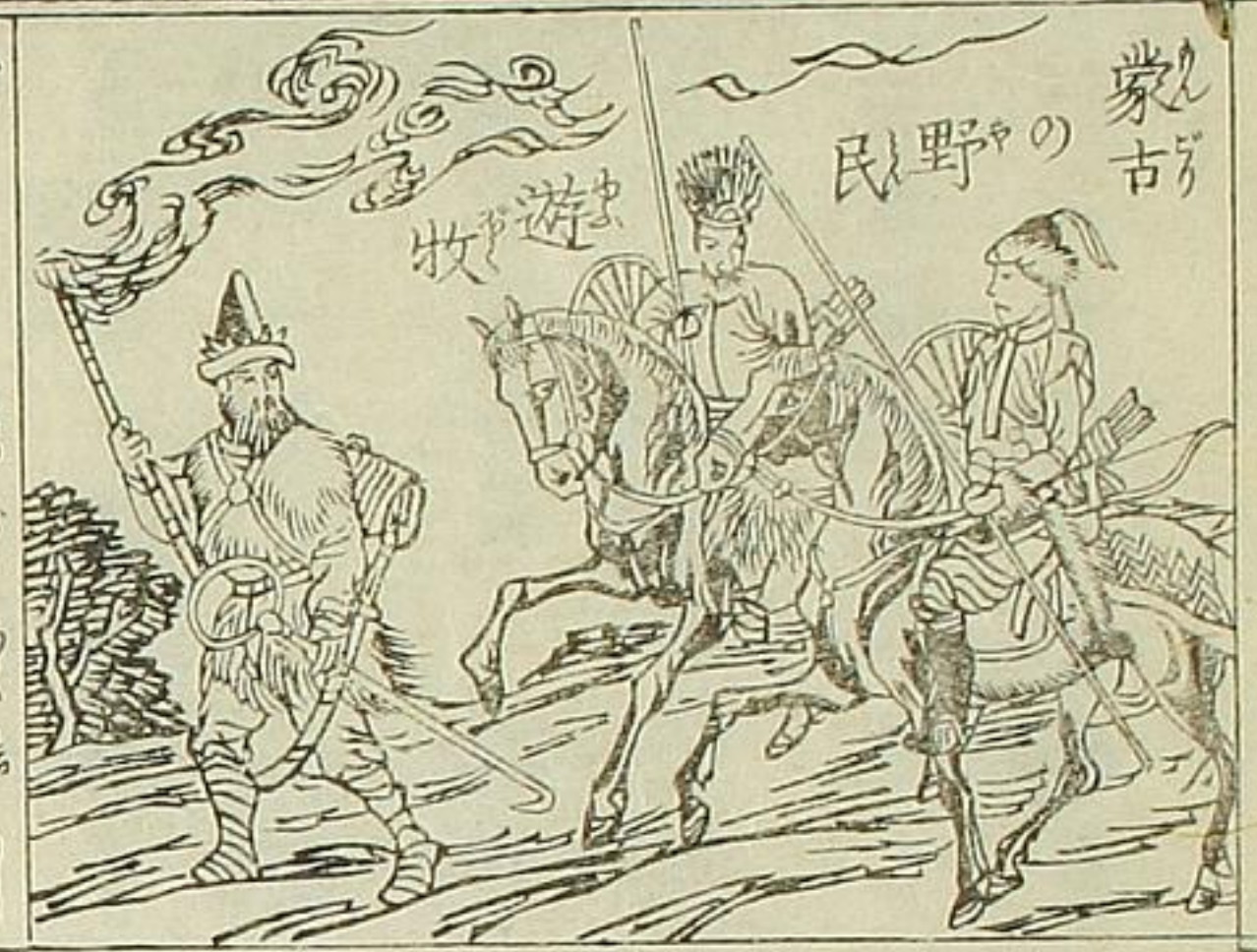
州西伊犁より。うも  
跨り廣大の平  
地より戈壁に沙  
漠は。東より西  
延く。長城外より







蒙古の野民  
 遊牧  
 義あり其暴惡獅子  
 虎の如く人を殺す  
 こと草を折る等一  
 く火を放ち貨を奪



道々々々。猛々勇々  
 暴夷。意。野。馬  
 を騎す。海山を  
 分て。獸。又。村。甲。也  
 衝。坊。り。恒。も。ん。あ

ひ猶進々々。西洋諸  
 國を併吞せんとす  
 る。猛勢あたるべか  
 ら。此。此。於。て。羅。馬  
 と。佛。蘭。西。の。西。兵。力  
 を。合。せ。漸。く。小。て  
 歐。土。を。驅。却。たり。又  
 支。那。の。地。方。小。於。て  
 小。蒙。古。の。種。属。次。弟  
 小。跋。蹠。して。元。の。基

甚。と。片。田。人。者。遙。も。ふ  
 體。々々。多。倫。祿。尔。府。  
 滿。州。也。手。都。少。々。  
 支。那。の。支。配。を。と。り。又  
 魯。西。亞。の。内。地

古史部台

卷一

○廿四  
○廿六



業以來今の清朝の  
至りて全國皆平定  
する所とあるは  
寒国より暖地へ侵  
入するに安く寒国よ  
り暖地へ進むこと  
難しといへる論必  
せりや野蠻兇暴の  
威力を以て奕世王  
業を傳ふる者少か

と貿易の諸品輸  
出は買賣城字留  
賀と喀爾喀に  
都府伊犁と崑崙  
の東南より北を魯西

らざるに地勢風土  
の然らばひるは因  
るの歎

蒙古英雄の譜

○アツチラ汗十五  
年前

○帖木兒又ナセル  
と称す

蒙古王の裔五百  
年前獨立鞏韌よ  
り起り亜細亜の  
大半を平定して

亜細界して蒙古  
の西にありある地方  
國は北部を天山  
北路南一部を支  
那都尔格葉爾





○鐵水真七十年前内蒙  
古の内テーラン  
ユルクツ之地  
人かり  
利加を震動せし  
歐羅巴及び亜非

羌府し支那領の  
西部の都是なり次  
隆る如西亞留和蘭  
の二府より天山西國  
乃者人常小注來

小生を父と也速  
諛と云蒙古小部  
落の酋長あり鐵  
木真幼くして大  
志あり年長せば  
及びて英才あり  
り部下を卒し蒙  
古全部を合従せ  
しめ終小長城を  
越へ北京を陥る

して互市の利益  
を計るとは我西の  
國を水の方崑崙  
山を押し隔く支那  
陸疆り界して







生前軍事小人と  
殺すこと大略五  
百万小餘と  
云ふ

○窩閣台

則ち太祖の三子  
小して鐵水真殺  
その後位小即  
き太宗と号之  
小嗣て定宗憲宗

朝の富を傾けを  
並ぶべし。中土釋迦  
の教法を寄依  
向の解を内地  
半を借ふ

皆在位久しから  
せむ致し太祖  
の孫忍必烈位小  
即く之を世祖と  
号し終小宋朝を  
七一支那全國を  
平定し又兼て蒙  
古大汗の位を登  
る故中其版圖ハ  
亜細亞の大略を

寺院を塔大伽藍  
夢あはるべし  
四千の僧法王を  
達頼喇嘛を叫傲  
まを政務の長を







づく崑崙の南より  
 北ハ魯西亜ハ界  
 蒙古の西ハある地  
 方と云ふ地方許多  
 の部落を分ち各首  
 長あり支那より葉  
 爾菴府ハ鎮臺と置  
 滿州の將帥ハ命ド  
 軍務と督ハ諸部と  
 管轄せしむ

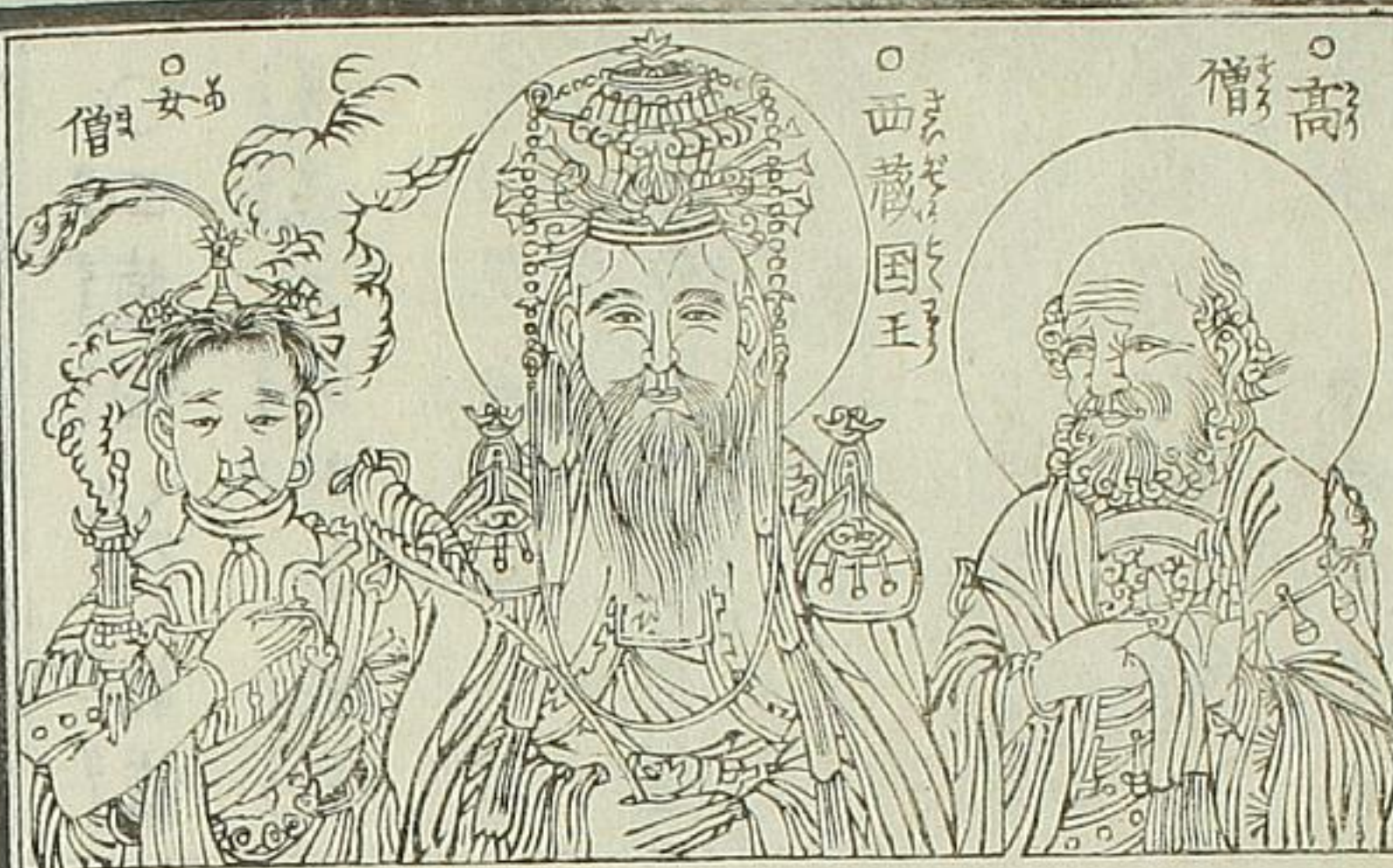
獸の皮衣を穿つ列  
 一妻一個娶る  
 兄弟幾個を侍  
 少交るハ陋き習ひ  
 淺猿き。拉薩城

○西藏國ハ又チ前藏  
 後藏の西部ハ區別  
 此國亞細亞中佛  
 教宗門の盛んある  
 こと他ハ比レベカ  
 ら法王貴重の高  
 僧其外ハ出る時ハ  
 市街の老若皆地ハ  
 伏して敬禮を施さ  
 若之を拜せざる者

法王の宮殿及び在  
 留支那總督の衛  
 府あり城外都路  
 清く寺院の美麗  
 金銀輝きことり



ハ嚴まじき刑けいふ處ところせら  
る、條じょう例れいあり



佛ぶつ前ぜんに。金こん剛かう寶ぼう石せき  
充ちゆう満まん。堂どう塔たう珠しゆ玉ぎよく  
を縷りゆう多たく。目めを驚おどろか  
しむ。佛ぶつへちま祭まつり

010190534079



